

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-----------------|-----|------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービス はくゆい | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年1月6日 | ～ | 令和7年1月15日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 21人 | (回答者数) 20人 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年1月6日 | ～ | 令和7年1月11日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6人 | (回答者数) 6人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年2月21日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 適切な支援の提供への視点 子どもを障がい種別や発達指数で区別をしない。個別の一人の子どもとしてとらえながら支援にあたっている。 | 適切な支援の提供への視点 主活動の提供時等、それぞれに合わせた課題設定やサポートの配慮を全職員で考え共有しながら行っている。 | 今後も課題目標の設定を子どもの評価とともに記録し、視覚化する中で関わる職員が共通認識を持って臨めるようにしていく。 |
| 2 | プログラムの内容について 子どもが楽しめ、経験として残ることを意識しながら、立案し実施している。 | プログラム会議を開き、職員が意見を出し合って立案している。週単位で担当者を決めリーダーとして準備を分担して行い、業務の効率化を図っている。 | 一週間同じプログラムを行うので複数回る子どもに対して、内容に変化をつける工夫を継続して行っていく。今年度のプログラムに変化を加えるなども検討していく。 |
| 3 | 保護者との連携や様子の伝達 HUGシステムを活用し、サービス提供記録に写真を添付し提示することで施設での様子をより分かりやすく伝達している。 | HUGシステムの活用のほか、送迎時や電話にてやり取りをしている。保護者からの発信には出来るだけ迅速、丁寧な対応を心掛けている。 | サービス提供記録の内容(課題の達成具合等)をより具体的に伝えていけるよう、職員間での子どもの成長具合の共有に努める。引き続き丁寧な保護者支援に努める。 |
| 4 | 環境 子どもの活動のスペースを十分確保することが出来ている。 | 活動室が広く、バリアフリーなので、歩行に配慮のいる子どもも活動しやすい。体を動かすプログラムも実施できている。 | 提供内容によっては、机や椅子の配置を変える。パーティションの活用をする等の工夫も継続して行っていく。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 家族参加のプログラム、子育てに関する情報発信の未実施 | 年間の計画を立案できておらず実施に至らなかった。 | 令和6年度中に次年度の年間計画を立て、計画的に準備を行い保護者へのお知らせを行う。 |
| 2 | 保護者支援の充実への課題 支援計画の更新に伴っての面談を基本、電話で行っている。 | 仕事をされていたり、小さい兄弟のいる保護者もいるので、電話での面談を基本に実施した。 | 面談方法を対面か、電話かの意向確認をしながら、個別支援計画に織り込む課題やニーズを引き出し、モニタリングの充実を図る。 |
| 3 | 非常時対応について 安全計画に基づいた研修、訓練の実施が確立できていない。保護者への伝達も警報発令、地震発令時の取り扱いは伝えているが、その他項目の伝達が未実施。医療機関との連携も保護者を間に入れて行っている状況にある。 | 安全対策、リスクマネジメントについて、都度、課題に直面してからの対応、実施となっていた。 | 新年度に向けて、年間行事の計画とともに、今在籍している子ども達にあった計画を立案する。 保護者への周知は新年度になった時や季節ごとに実施内容を報告していく。 医療機関との連携は必要に応じて保護者の同意を得て連携していく。 |